

令和4年度栃木県立馬頭高等学校シラバス

教科名	科目名	単位数	学年・学科・授業クラス
情報	情報Ⅰ	2	1 学年・普通科・1－1、2

科目概要と目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。		
教科書・副教材		実教出版 図説 情報Ⅰ	
評価の観点	知識・技能 [40点]	情報と情報技術についての知識と技能、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法についての知識と技能を身に付けるとともに、情報社会と人との関わりについては、情報に関する法規や制度及びマナー、個人が果たす役割や責任等について、情報と情報技術の理解と併せて身に付けたか。	
	思考・判断・表現 [40点]	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、さまざまな事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身に付けたか。	
	主体的に学習に向かう態度 [20点]	法規や制度及びマナーを守ろうとする態度、情報セキュリティを確保しようとする態度などの情報モラルを養い、情報社会に主体的に参画する態度を養うことができたか。	
評価の方法	◎上記評価の観点について、それぞれA・B・Cの3つの段階で評価します。 【知識・技術（配点40点）】 定期試験 80% 定期試験以外評価 20% ※試験以外評価：各授業時課題（ワークシート等） <u>A：40～26点 B：25～13点 C：13点以下</u> 【思考・判断・表現（配点40点）】 定期試験 50% 定期試験以外評価 50% ※試験以外評価：各授業時課題（ワークシート等） <u>A：40～26点 B：25～13点 C：13点以下</u> 【主体的に学習に向かう態度（配点20点）】 定期試験以外評価 100% ※試験以外評価：発表、授業態度 <u>A：20～12点 B：11～6点 C：5点以下</u>		

学習計画および評価方法 等（科の特性に応じて書式や項目を改変してください）

評価の観点：a（知識・技能）b（思考・判断・表現）c（主体的に学習に向かう態度）

月	学習内容	学習のねらい・活動	評価の観点		
			a	b	c
4	オリエンテーション コンピュータの基本操作、注意事項	・コンピュータ室の利用方法について	○		○
5	序章 ○ 情報と社会の特徴 ○ 情報化の進展と情報技術 ○ 情報化社会における個人の責任	・情報や知識，IoT，人工知能（AI）について ・情報の特徴について ・情報化による利便性について	○ ○	○	○ ○ ○
6	<u>1章 情報社会と問題解決</u> 2節 情報社会における法規と制度 3節 情報セキュリティと個人が行う対策	・情報社会における法規と制度について ・コンピュータウイルスやマルウェアの概要と対策について	○ ○	○	
7	<u>2章 コミュニケーションと情報デザイン</u> 1節 メディア 2節 コミュニケーション	・メディアについて ・コミュニケーションについて	○	○	
8					
9	<u>3章 情報とコンピュータ</u> 1節 情報の表し方 2節 コンピュータでのデジタル表現 3節 情報機器とコンピュータ	・アナログ・デジタルの特徴について ・コンピュータ内部での数値の表現について ・身の回りの情報機器、IoT の事例について ・ハードウェアとソフトウェアの違い，五大装置、OS と、ソフトの関係について	○ ○ ○	○	
10	<u>4章 アルゴリズムとプログラム</u>				
11	1節 アルゴリズムと基本構造 3節 プログラムの応用	・アルゴリズムの基本について ・プログラム実習	○	○ ○	○
12	<u>5章 モデル化とデータの活用</u> 2節 シミュレーション	・シミュレーションの手順と注意点について	○		
1	<u>6章 ネットワークと情報システム</u> 1節 ネットワークの仕組み	・ネットワークの仕組みについて	○		
2	<u>Word の使い方</u>	・word の使い方の実習	○		○
3					

令和4年度栃木県立馬頭高等学校シラバス

教科名	科目名	単位数	学年・学科・授業クラス
情報	課題研究	4	3 学年・普通科・選択c

科目概要と目標	1 情報に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。 2 検定取得のために、情報技術を用いて表現する。 3 情報を適切に表現する能力と態度を育てる。	
教科書・副教材		
評価の観点	関心・意欲・態度	情報や情報社会に興味をもち、身のまわりの問題を解決するために進んで情報に関する資格の取得のために主体的に対応しようとする。
	思考・判断・表現	情報活用の方法を工夫したり、改善したりすることにより、問題を解決するための適切な判断を行い表現する。
	技能	課題に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。
	知識・理解	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身につけるとともに、現代社会における情報の意義や役割を理解している。
評価の方法	各学期 平常点（課題提出・授業への取り組みなど） 50% 筆記試験および実技試験 50% ※実技教科であるので、授業の欠席、遅刻の際には減点する場合がある。 学年末 各学期の評点の平均	

学習計画および評価方法 等

評価の観点：a（関心・意欲・態度）b（思考・判断・表現）c（技能）d（知識・理解）

月	学習内容	学習のねらい・活動	評価の観点			
			a	b	c	d
4	○オリエンテーション コンピュータの基本操作と注意事項	・コンピュータ室の利用上の注意 ・コンピュータの基本操作	○		○	○
5	○職業資格のための学習（ワープロ）	・入力の練習		○	○	
6		・Word による文書作成	○	○	○	○
7						
8	○職業資格のための学習（Excel）	表計算の練習	○	○	○	○
9						
10						
11	○情報の表現の総まとめ	・新聞作り	○	○	○	○
12						
1	○情報の表現の総まとめ	・新聞作り	○	○	○	○
2						
3						